

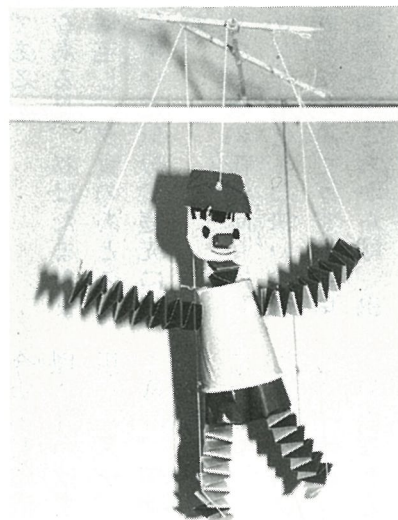


〔ミシンを踏む友達〕

5年 越川洋伸くん
 友達の目と口を描くの
 に苦労しました。ミシン
 の形は、うまくとれたと
 思います。



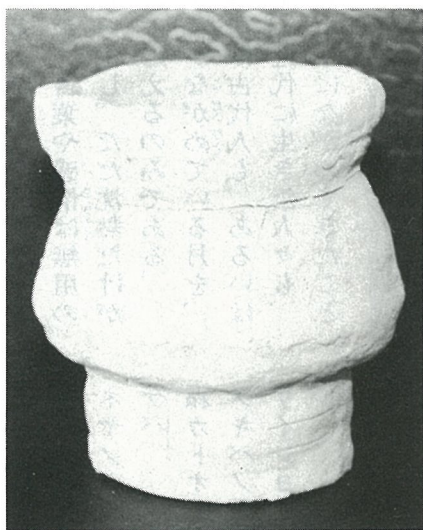
3年 布施智子さん
 紙ばねを折ったり、の
 りをつける所が、とても
 むずかしかったです。



〔紙ばねのおもちゃ〕

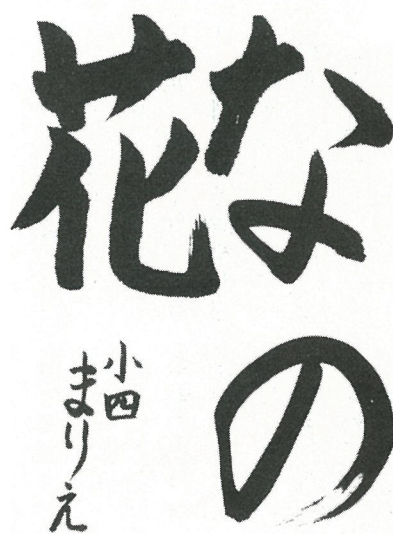


6年 伊藤佳世子さん
 なかなかうまくいかず、
 何度も失敗して、やっとで
 きました。



〔縄文式土器〕

4年 斉藤万里絵さん
 「の」の字がうまく書
 けなく、何回も練習を重
 ねて、がんばりました。



ひかり歌壇

君逝ける八十六才奥津城は西陽ま
 もに彼岸花咲く

大木静波子 (篠本二区)

西風の日すがら止まず夕庭に渦巻き
 ながら落ち葉吹き舞う

伊藤 定男 (尾垂五区)

つれづれの心侘びしく野に立ちて鰯
 雲散る空を眺むる

藤代 敏子 (宮内)

庭木の枝打ち終えて焚く燠に入れ
 たる芋の焼くる匂ひす

青柳 フミ (橋場)

十六夜の月は昇らずさらさらと池の
 噴水閣に聞ゆる

伊藤 鏡子 (虫生)

取り留めし命なれども病む夫の生き
 ゆくことの苦しさ告ぐる

椎名 静子 (二又)

みづみづし緑に乾く新葉の香り立つ
 田に腰を下ろせり

土屋 好 (虫生)

千万の煩惱朽ちず彼岸花深紅かなし
 く墓地を灯せり

竹内 紀葉 (篠原)

明るいあいさつ笑顔がかえる